

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200045		
法人名	あい吉眺福祉会株式会社		
事業所名	あいわグループホーム	ユニット名	東棟
所在地	石巻市渡波字新沼178		
自己評価作成日	平成22年 8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方やご家族様の協力を得て毎月行事を行い、利用者様おひとりおひとりがグループホームでの生活を楽しみ、より良い思い出作りができるように支援させて頂いております。</li> <li>・利用者様の希望をお伺いし、各棟ごとに曜日を定め毎週ドライブやお買い物に外出しております。献立を作成するときには食べたい物を聞いて毎月の献立表を作成し、利用者様が喜ばれるように支援しております。</li> <li>・利用者様の状態に合わせた役割(お手伝い)を持って頂き残存能力と健康の維持を図り、毎日のんびりゆったり暮らせるような環境作りに取り組んでおります。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年9月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅と稲を刈り取ったばかりの田んぼに囲まれた自然豊かな環境にあり、事業所の家庭菜園でもナスやトマト等の野菜を収穫し、入居者と一緒に昔懐かしい料理も作っている。地域の人草取りを手伝い、地域交流にもなっている。石巻という土地柄から、魚好きの入居者が多く、お寿司を美味しくほおぼる写真や行事、外出時の楽しそうな写真が居間に飾ってあった。全員での外出は入居者の生き生きとした表情や熟眠に繋がると捉え、週一度のドライブや外出支援に力を入れている。隣接するデイサービスとは共同で夏祭りを開催する等協力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **あいわグループホーム** )「ユニット名 **東棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をパンフレットに明記するとともに玄関に掲示し、職員同士が理念を共有し意識を高めることができるようにしている。	法人の理念として「ゆったりと自然な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分でやれる喜びと達成感のある暮らし、自分らしさや誇りを保った暮らし」を、実践につなげているが、振り返りは確認できなかった。	行動規範としての理念は、地域密着型事業所として、ケアの振り返りをしながら実践に活かされているか、一年に一度は皆で話し合っ共通理解をしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で実施する季節ごとの行事に地域住民の方に参加頂いたり、施設の家庭菜園の一部を開放する等、交流を深めている。	町内の清掃に参加したり、事業所主催の敬老会に地域の演芸ボランティアが来訪する等交流をしている。「あいわだより」作成を再開し、家族とのコミュニケーションや地域との交流に活かせるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に認知症の方の生活の様子や支援の方法をお話し、理解を図り協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月で開催し、事業所の運営活動状況を報告し、助言を頂きご意見を参考にしながらサービスの向上に活かしている。	今年度より地域包括支援センター所長もメンバーになり(2回)、隔月の偶数月に開催されている。(6回)。防災訓練や事業所の行事等について報告、相談している。今後は双方向的な会議になるよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要に応じ適宜に助言、ご指導を頂き現場に活かしている。	介護保険法について不明な点を電話で聞いたり、市主催のケア会議に出席し情報の収集をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。月に2回行われる内部研修時に身体拘束についても取り上げ、理解を深めている。原則として日中は鍵をかけないことを方針としている。	マニュアル等で職員も理解し、拘束のないケアを実践している。ベッドから落ちないように圧迫感のない家具を配置したり、壁よりに寄せて転倒予防をし工夫している。外出傾向にある人はいないが、地域の協力は得られるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。内部研修にて虐待防止について学び理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見制度、日常生活自立支援事業について学び、職員が周知できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人様、ご家族様に重要事項説明書、契約内容について懇切丁寧にご説明し同意を得るようにしている。最後に疑問点等ないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、また重要事項説明書に相談窓口を明記している。家族からの意見要望などについてはユニット会議等で話し合い、ケアに反映させている。	電話や来訪時に話し合いをしている。ケアのこと以外でも、家族の携帯電話への連絡は必要最小限にしてみたいという意見があり、事業所内で話し合い、今後は気をつけるようにしようと意識確認をし家族に伝えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングや各棟のユニット会議にて職員と話し合い意見を取り入れ連携を密に図っている。	ユニット会議には代表者も参加し、職員の意見を聞き運営に反映させている。回転式のモップや安眠に繋がる低反発枕、嚥下低下対応の為にミキサー、おかゆ炊き釜等を購入し、職員の働く意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務内容及び能力に応じ役職や役割をつけ、やりがいのある環境の整備に努めている。今年度は開所し3年目を迎え、職員へ感謝の気持ちを表し、ディズニーシーへ慰安旅行に招待した。デイサービスの職員も交え職員同士交流を図った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はなるべく多くの職員が参加できるようにしている。受講者は他職員が周知できるように研修記録書を作成し職場に活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がケア会議やGH協議会ブロック集会等へ参加、他GHの職員と情報交換し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行いご本人様の生活状況等を把握し、居室担当者を決め、よくお話を聞き理解者になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際に、ご家族様からご本人様について聞き取りを行い、ご家族様の困っている点や要望を話し合い解決できるよう助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りした内容からご本人様とご家族の要望を把握し管理者を中心に話し合い必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が「できること」を見極め、意思を尊重し生活の中で役割を職員と一緒にを行い、日頃から支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あいわ便りを月に一回送付し、各行事やお誕生日会の開催をお知らせしている。面会の際には生活状況を報告しご家族様と職員もなじみの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブの際にご本人様の自宅方面や行きたいとリクエストがあった場所へ外出し、気分転換を図れるようにしている。	友人から年賀状が届いたり、入居以来馴染みになった訪問理容、大型スーパーや百円均一ショップに出掛け買い物をしている。実家の庭が、草取りを済ませてきれいになったのを見て安心して帰れる等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく過ごせることができるよう、テーブルや座席の位置に配慮しなるべく皆様とご一緒に、リビングにて過ごして頂くよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は後任のケアマネージャーに情報提供票を作成したりお見舞いに行ったり必要に応じ経過を見守るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中でご本人様の思いや希望の把握に努め、満足したホームでの生活が営めるよう支援している。	絵を描く趣味の支援や、民謡が好きな入居者が所属していた会の集まりに出席したり、ストレスが溜まってきたと察したらドライブに誘い、気分転換を図る等支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報収集し、カンファレンス、ユニット会議にて情報の共有化に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに基づきミーティングで話し合い利用者の状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントから本人の状況やご家族様の要望を把握し、管理者、担当者と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントに基づき月一度のカンファレンスで検討しケアプランを作成している。実践を評価し3ヶ月に一度計画の見直しをしている。家族から同意を得ているが、本人、家族の意見をもう少し反映できる様にしていきたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひとりひとりの発言やその日の状態をその都度支援経過に記録、また申し送りノートを利用し職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望にできるかぎり沿って介護計画を立て見直しを行い充実した生活が過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内だけのイベントだけではなく外出行事も企画し、松島水族館やおしかホエールランドへ見学にいたり、心豊かに楽しんで過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図り、必要に応じ往診して頂いている。ご本人様とご家族様の意思を尊重し適切な医療を受けられることができるように支援している。	入居者の受診には職員が付き添い支援している。医師からの助言や薬の処方について電話で連絡し記録もしている。この細やかな配慮が家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現在不在であるが、介護員は自己判断せずに協力医療機関へ連絡し対応の指示を受け速やかに受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者や介護員が付き添い、ホームでの状況を伝え、医師からの治療方針を提示して頂き、退院後スムーズにホームでの生活ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に付記された重度化した場合の対応の指針について説明し同意を得ている。また内部研修にて重度化した場合について学び職員が周知できるよう取り組んでいる。	重度化した場合の指針を成文化し、家族の同意を得ているが、具体的な内容の意思確認書作成の検討もお願いしたい。職員は看取りについて理解を示し前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを作成している。内部研修にて学び、急変時のマニュアルを各棟の見やすい場所へ掲示し日頃から確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に地域の方や消防職員の協力を得て行い、職員が日頃から避難方法を身につけることができるよう訓練している。また夜間火災対応マニュアルも新たに作成し職員に周知させている。	地域の協力があり、夜間想定訓練も行っている。実際に起きた時はうまくいか不安もある。スプリンクラー設置は年内を予定している。開設後3年経過しているが、非常用食料の備蓄はない。	非常用備蓄や備品については検討している段階であるということなので、早々の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとりひとりにあった声掛けや呼び方をするよう心掛けている。また個人情報保護マニュアルを作成し内部研修にて学んでいる。	尊厳を込めて、「さん」付けで呼びかけをしている。特にプライバシーに関することに配慮し、自分がやられたら恥ずかしいと思う事はやらないようにと職員に徹底している。居室の出入りは本人の了解を得てからにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が分かりやすい表現、言葉を用いてゆっくり大きな声で話しかけ、自己決定が出来るように声掛けや誘導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の気持ちを理解しその人のペースを大切に、ゆったりと生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を月に1回利用し希望に応じカットしてもらっている。また洋服はご本人様に選んで頂きその日に着たい服が着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできることを手伝って頂いたり、好みの献立を取り入れる等しながら、楽しんで食事してもらえよう支援している。	出来る方には食事前後の準備や下膳、食器拭き等を手伝ってもらっている。職員も同じものを一緒に食べ、さりげない支援をしていた。テレビをみながら比較的静かな食事風景であった。	栄養バランスは適切であるか確認したり、食事についての内容を、管理栄養士や保健師などに年2回以上相談し、アドバイスをさせていただきよう願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し、摂取量のチェック表を記録している。食事介助、見守りをする事で水分や摂取量の把握、食事時間入れ歯の状態を観察し能力に応じた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアや入れ歯の洗浄を行い、衛生的に保たれるよう支援している。週に1回歯科の訪問診療を受け口腔内クリーニングや入れ歯調整をして頂き衛生的に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様おひとりおひとりの排泄パターンをチェックし、見極め、尊厳を傷つけないよう誘導している。残存能力を活かし可能な限りトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表からパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。病院ではオムツだった方が、自立での排泄が可能になった例がある。夜間のみポータブルトイレを利用している入居者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い体を動かし、朝食に乳製品を摂取、また野菜や果物で食物繊維の摂取と水分補給して頂き、極力自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する前に声掛けを行い無理強いせず、ご本人様の希望をお伺いし入浴して頂いている。拒否がある場合には声掛けにより手浴足浴やシャワー浴などで対応している。	週3~4回入浴している。その日に気分が乗らない入居者には、翌日改めて声掛けして入っていただく様にしている。普通の家族風呂と、レベルが落ちて入浴支援ができる様、両側から介助できる浴槽とミストシャワーがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活パターンをよく観察、把握し、利用者様が好きな場所や安らげる場所を選んで安心して生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書はお薬ファイルに綴じ、職員全員が薬の効能について理解を深めるよう努めている。また、支援経過の服薬確認欄にお薬の与薬者と確認者を記入しチェックできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の能力に応じ、洗濯物たたみや食器拭き、食事の号令掛け、野菜の収穫のお手伝いなどそれぞれの役割をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出先を選定し、冬は鹿島台に白鳥を見に行き、春は日和山や専修大学へお花見に行き、夏は松島水族館を見学し、GHでの生活を楽しみ、より良い思い出作りができるよう支援している。都合のよいご家族様には同行して頂き協力を得ている。	本人の希望を取り入れ、実家、自宅、馴染みの店や散歩、ドライブ等積極的に外出支援をしている。年間計画を立てて遠方へも全員で出掛け、季節感を味わっている。五感の刺激により、入居者の目の輝きが増してくるということである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望をお伺いし、一緒にお買い物できる方は外出し必要なものを買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればご家族様へ電話をし、ご家族様の声を聞き安心して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間を作れるよう、季節ごとの飾り付けや観葉植物、植木等を置き自然を取り入れることで、居心地よく過ごせるよう工夫している。	明るい天窓と高い天井が開放感を醸し出しゆったりと過ごせる雰囲気である。職員が作った折り紙の飾りは、やさしい雰囲気である。適温適湿で換気もされている。入居者は絵筆で素晴らしい絵を描いたり、歌をうたったり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	壁際にソファを配置したり、一人になりたいときには居室にてゆったりとくつろいで頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様が慣れ親しんだ家具を持ち込んで頂き、使いやすいように配置してもらい、カレンダーや写真を飾り気持ちよく安心して生活できるよう工夫している。	居室の入り口に、家を模した折り紙に表札が掛けられている。思い出の写真、手作りのタペストリー、馴染みの家具や電気スタンド、テレビ等が配置され自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどの場所に手すりがあり、各居室の入り口付近にはご本人様の表札をつけわかりやすいようにしている。全館バリアフリーで歩行器や車椅子での生活に配慮されている。座席のテーブルには名前を貼ってわかりやすくしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200045		
法人名	あい吉眺福祉会株式会社		
事業所名	あいわグループホーム	ユニット名	西棟
所在地	石巻市渡波字新沼178		
自己評価作成日	平成22年 8月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方やご家族様の協力を得て毎月行事を行い、利用者様おひとりおひとりがグループホームでの生活を楽しみ、より良い思い出作りができるように支援させて頂いております。</li> <li>・利用者様の希望をお伺いし、各棟ごとに曜日を定め毎週ドライブやお買い物に外出しております。献立を作成するときには食べたい物を聞いて毎月の献立表を作成し、利用者様が喜ばれるように支援しております。</li> <li>・利用者様の状態に合わせた役割(お手伝い)を持って頂き残存能力と健康の維持を図り、毎日のんびりゆったり暮らせるような環境作りに取り組んでおります。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年9月28日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅と稲を刈り取ったばかりの田んぼに囲まれた自然豊かな環境にあり、事業所の家庭菜園でもナスやトマト等の野菜を収穫し、入居者と一緒に昔懐かしい料理も作っている。地域の人草取りを手伝い、地域交流にもなっている。石巻という土地柄から、魚好きの入居者が多く、お寿司を美味しくほおぼる写真や行事、外出時の楽しそうな写真が居間に飾ってあった。全員での外出は入居者の生き生きとした表情や熟眠に繋がると捉え、週一度のドライブや外出支援に力を入れている。隣接するデイサービスとは共同で夏祭りを開催する等協力している。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **あいわグループホーム** )「ユニット名 **西棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をパンフレットに明記するとともに玄関に掲示し、職員同士が理念を共有し意識を高めることができるようにしている。	法人の理念として「ゆったりと自然な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分でやれる喜びと達成感のある暮らし、自分らしさや誇りを保った暮らし」を、実践につなげているが、振り返りは確認できなかった。	行動規範としての理念は、地域密着型事業所として、ケアの振り返りをしながら実践に活かされているか、一年に一度は皆で話し合っ共通理解をしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で実施する季節ごとの行事に地域住民の方に参加頂いたり、施設の家庭菜園の一部を開放する等、交流を深めている。	町内の清掃に参加したり、事業所主催の敬老会に地域の演芸ボランティアが来訪する等交流をしている。「あいわだより」作成を再開し、家族とのコミュニケーションや地域との交流に活かせるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に認知症の方の生活の様子や支援の方法をお話し、理解を図り協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月で開催し、事業所の運営活動状況を報告し、助言を頂きご意見を参考にしながらサービスの向上に活かしている。	今年度より地域包括支援センター所長もメンバーになり(2回)、隔月の偶数月に開催されている。(6回)。防災訓練や事業所の行事等について報告、相談している。今後は双方向的な会議になるよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要に応じ適宜に助言、ご指導を頂き現場に活かしている。	介護保険法について不明な点を電話で聞いたり、市主催のケア会議に出席し情報の収集をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。月に2回行われる内部研修時に身体拘束についても取り上げ、理解を深めている。原則として日中は鍵をかけないことを方針としている。	マニュアル等で職員も理解し、拘束のないケアを実践している。ベッドから落ちないように圧迫感のない家具を配置したり、壁よりに寄せて転倒予防をし工夫している。外出傾向にある人はいないが、地域の協力は得られるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。内部研修にて虐待防止について学び理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見制度、日常生活自立支援事業について学び、職員が周知できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人様、ご家族様に重要事項説明書、契約内容について懇切丁寧にご説明し同意を得るようにしている。最後に疑問点等ないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、また重要事項説明書に相談窓口を明記している。家族からの意見要望などについてはユニット会議等で話し合い、ケアに反映させている。	電話や来訪時に話し合いをしている。ケアのこと以外でも、家族の携帯電話への連絡は必要最小限にしてみたいという意見があり、事業所内で話し合い、今後は気をつけるようにしようと意識確認をし家族に伝えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングや各棟のユニット会議にて職員と話し合い意見を取り入れ連携を密に図っている。	ユニット会議には代表者も参加し、職員の意見を聞き運営に反映させている。回転式のモップや安眠に繋がる低反発枕、嚥下低下対応の為にミキサー、おかゆ炊き釜等を購入し、職員の働く意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務内容及び能力に応じ役職や役割をつけ、やりがいのある環境の整備に努めている。今年度は開所し3年目を迎え、職員へ感謝の気持ちを表し、ディズニーシーへ慰安旅行に招待した。デイサービスの職員も交え職員同士交流を図った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はなるべく多くの職員が参加できるようにしている。受講者は他職員が周知できるように研修記録書を作成し職場に活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がケア会議やGH協議会ブロック集会等へ参加、他GHの職員と情報交換し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行いご本人様の生活状況等を把握し、居室担当者を決め、よくお話を聞き理解者になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際に、ご家族様からご本人様について聞き取りを行い、ご家族様の困っている点や要望を話し合い解決できるよう助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りした内容からご本人様とご家族の要望を把握し管理者を中心に話し合い必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が「できること」を見極め、意思を尊重し生活の中で役割を職員と一緒にを行い、日頃から支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あいわ便りを月に一回送付し、各行事やお誕生日会の開催をお知らせしている。面会の際には生活状況を報告しご家族様と職員もなじみの関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブの際にご本人様の自宅方面や行きたいとリクエストがあった場所へ外出し、気分転換を図れるようにしている。	友人から年賀状が届いたり、入居以来馴染みになった訪問理容、大型スーパーや百円均一ショップに出掛け買い物をしている。実家の庭が、草取りを済ませてきれいになったのを見て安心して帰れる等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく過ごせることができるよう、テーブルや座席の位置に配慮しなるべく皆様とご一緒に、リビングにて過ごして頂くよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は後任のケアマネージャーに情報提供票を作成したりお見舞いに行ったり必要に応じ経過を見守るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中でご本人様の思いや希望の把握に努め、満足したホームでの生活が営めるよう支援している。	絵を描く趣味の支援や、民謡が好きな入居者が所属していた会の集まりに出席したり、ストレスが溜まってきたと察したらドライブに誘い、気分転換を図る等支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報収集し、カンファレンス、ユニット会議にて情報の共有化に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに基づきミーティングで話し合い利用者の状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントから本人の状況やご家族様の要望を把握し、管理者、担当者と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントに基づき月一度のカンファレンスで検討しケアプランを作成している。実践を評価し3ヶ月に一度計画の見直しをしている。家族から同意を得ているが、本人、家族の意見をもう少し反映できる様にしていきたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひとりひとりの発言やその日の状態をその都度支援経過に記録、また申し送りノートを利用し職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望にできるかぎり沿って介護計画を立て見直しを行い充実した生活が過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内だけのイベントだけではなく外出行事も企画し、松島水族館やおしかホエールランドへ見学にいたり、心豊かに楽しんで過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図り、必要に応じ往診して頂いている。ご本人様とご家族様の意思を尊重し適切な医療を受けられることができるように支援している。	入居者の受診には職員が付き添い支援している。医師からの助言や薬の処方について電話で連絡し記録もしている。この細やかな配慮が家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現在不在であるが、介護員は自己判断せずに協力医療機関へ連絡し対応の指示を受け速やかに受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者や介護員が付き添い、ホームでの状況を伝え、医師からの治療方針を提示して頂き、退院後スムーズにホームでの生活ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に付記された重度化した場合の対応の指針について説明し同意を得ている。また内部研修にて重度化した場合について学び職員が周知できるよう取り組んでいる。	重度化した場合の指針を成文化し、家族の同意を得ているが、具体的な内容の意思確認書作成の検討もお願いしたい。職員は看取りについて理解を示し前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを作成している。内部研修にて学び、急変時のマニュアルを各棟の見やすい場所へ掲示し日頃から確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に地域の方や消防職員の協力を得て行い、職員が日頃から避難方法を身につけることができるよう訓練している。また夜間火災対応マニュアルも新たに作成し職員に周知させている。	地域の協力があり、夜間想定訓練も行っている。実際に起きた時はうまくいか不安もある。スプリンクラー設置は年内を予定している。開設後3年経過しているが、非常用食料の備蓄はない。	非常用備蓄や備品については検討している段階であるということなので、早々の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとりひとりにあった声掛けや呼び方をするよう心掛けている。また個人情報保護マニュアルを作成し内部研修にて学んでいる。	尊厳を込めて、「さん」付けで呼びかけをしている。特にプライバシーに関することに配慮し、自分がやられたら恥ずかしいと思う事はやらないようにと職員に徹底している。居室の出入りは本人の了解を得てからにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が分かりやすい表現、言葉を用いてゆっくり大きな声で話しかけ、自己決定が出来るように声掛けや誘導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の気持ちを理解しその人のペースを大切に、ゆったりと生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を月に1回利用し希望に応じカットしてもらっている。また洋服はご本人様を選んで頂きその日に着たい服が着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできることを手伝って頂いたり、好みの献立を取り入れる等しながら、楽しんで食事してもらえよう支援している。	出来る方には食事前後の準備や下膳、食器拭き等を手伝ってもらっている。職員も同じものを一緒に食べ、さりげない支援をしていた。テレビをみながら比較的静かな食事風景であった。	栄養バランスは適切であるか確認したり、食事についての内容を、管理栄養士や保健師などに年2回以上相談し、アドバイスをさせていただきよう願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し、摂取量のチェック表を記録している。食事介助、見守りをする事で水分や摂取量の把握、食事時間入れ歯の状態を観察し能力に応じた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアや入れ歯の洗浄を行い、衛生的に保たれるよう支援している。週に1回歯科の訪問診療を受け口腔内クリーニングや入れ歯調整をして頂き衛生的に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様おひとりおひとりの排泄パターンをチェックし、見極め、尊厳を傷つけないよう誘導している。残存能力を活かし可能な限りトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表からパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。病院ではオムツだった方が、自立での排泄が可能になった例がある。夜間のみポータブルトイレを利用している入居者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い体を動かし、朝食に乳製品を摂取、また野菜や果物で食物繊維の摂取と水分補給して頂き、極力自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する前に声掛けを行い無理強いせず、ご本人様の希望をお伺いし入浴して頂いている。拒否がある場合には声掛けにより手浴足浴やシャワー浴などで対応している。	週3~4回入浴している。その日に気分が乗らない入居者には、翌日改めて声掛けして入っていただく様にしている。普通の家族風呂と、レベルが落ちてでも入浴支援ができる様、両側から介助できる浴槽とミストシャワーがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活パターンをよく観察、把握し、利用者様が好きな場所や安らげる場所を選んで安心して生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書はお薬ファイルに綴じ、職員全員が薬の効能について理解を深めるよう努めている。また、支援経過の服薬確認欄にお薬の与薬者と確認者を記入しチェックできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の能力に応じ、洗濯物たたみや食器拭き、食事の号令掛け、野菜の収穫のお手伝いなどそれぞれの役割をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出先を選定し、冬は鹿島台に白鳥を見に行き、春は日和山や専修大学へお花見に行き、夏は松島水族館を見学し、GHでの生活を楽しみ、より良い思い出作りができるよう支援している。都合のよいご家族様には同行して頂き協力を得ている。	本人の希望を取り入れ、実家、自宅、馴染みの店や散歩、ドライブ等積極的に外出支援をしている。年間計画を立てて遠方へも全員で出掛け、季節感を味わっている。五感の刺激により、入居者の目の輝きが増してくるということである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望をお伺いし、一緒にお買い物できる方は外出し必要なものを買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればご家族様へ電話をし、ご家族様の声を聞き安心して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間を作れるよう、季節ごとの飾り付けや観葉植物、植木等を置き自然を取り入れることで、居心地よく過ごせるよう工夫している。	明るい天窓と高い天井が開放感を醸し出しゆったりと過ごせる雰囲気である。職員が作った折り紙の飾りは、やさしい雰囲気である。適温適湿で換気もされている。入居者は絵筆で素晴らしい絵を描いたり、歌をうたったり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	壁際にソファを配置したり、一人になりたいときには居室にてゆったりとくつろいで頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様が慣れ親しんだ家具を持ち込んで頂き、使いやすいように配置してもらい、カレンダーや写真を飾り気持ちよく安心して生活できるよう工夫している。	居室の入り口に、家を模した折り紙に表札が掛けられている。思い出の写真、手作りのタペストリー、馴染みの家具や電気スタンド、テレビ等が配置され自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどの場所に手すりがあり、各居室の入り口付近にはご本人様の表札をつけわかりやすいようにしている。全館バリアフリーで歩行器や車椅子での生活に配慮されている。座席のテーブルには名前を貼ってわかりやすくしている。		